# 高度化する実習スーパービジョン

中部学院大学人間福祉学部教授・元岐阜県社会福祉士会会長

宮嶋　淳（みやじま　じゅん）

# 本日の内容

1. 明確化されたソーシャルワーク・スーパービジョン
2. 複数化した実習スーパーバイザー
3. 実習プログラムとの連結動
4. スーパービジョンの機会＝実習評価の機会
5. 社会福祉士をめざす学生の変化

# 明確化された
# ソーシャルワーク・スーパービジョン

- 新版社会福祉士実習指導者テキスト（2022）pp249-253　対応
  - 「ソーシャルワーク」におけるスーパービジョンとして、全米SW協会に準拠
  - カデューシン・Aの包括的定義の支持
  - 認定社会福祉士認証・認定機構のシステム援用
  - 研究成果の応用としてのスーパービジョンの効果
    ①　サービス水準の確保　②　信頼性の確保　③　専門性の自己覚知　④　モチベーション
    ⑤　質の向上
  - スーパービジョン構造としての「組織の長」の承認の位置づけ

# 複数化した実習スーパーバイザー

- pp254-259　対応

- なぜ実習SVが必要なのか　－　実習指導者にとってのメリット
  ①　次世代育成　②　多様性の理解　③　教育・指導・変化への着目と方法論確立

- 専門職間のSVと異なる「実習スーパービジョン」　－　経験・技術・知識なき実習生

- 実習先が複数になり、複数のSVと対面する　－　混乱するSVシステムになることを回避

- 事前訪問時のSV　－　養成校＋他の実習先のレディネス、学生のアセスメント＋管理的SV

取り交わした実習契約の内容に齟齬がない程度に教育をしているか
他の実習先が、どのように実習SVを提供したのか

# 実習プログラムとの連結動

- pp260-264　対応

- 「三段階（職場・職種・SW）実習」→「ソーシャルワーク実習」

- 実習SVのターゲット　－　「ソーシャルワーク」の知識・技術・職業意識

- 多様化した学生への対応としての個別実習プログラムによる管理的・教育的SV

↓

実習生を受け入れた期間における日常的評価と連動

↓

一日・一週間・随時・総体

# スーパービジョンの機会
# ＝評価の機会

- 実習期間を通して、実習生には「ソーシャルワーク」を伝授することになるので、実習指導者がより厳格な意味で「ソーシャルワーカー」でなければならない。
- 学生は、実習期間中、常にSVと評価の機会に恵まれている。逆もしかり。
- 実習指導者は、こうした恵まれた機会を通して、専門性を研鑽できる。

# 社会福祉士をめざす学生の変化

- 実習の目的が、「社会福祉士受験資格を得るため」という学生
- 実習先は、「自宅から通えれば、どこでも良い」という学生
- コミュニケーション力の乏しさ　－「会話力」ではなく「共創力」の低下
- ハラスメントに敏感　－　診断には及ばないが、発達障害系の学生

# まとめ

- pp271-275　対応
- スーパービジョンの事例　－　職場の実習チームで、ロールプレイを！
- 養成校と　過去の実習記録（実習日誌・ノート等）を活用し、　指導方法の共有を！
- 記録のデータ化に関する考え方の共有　－　筆圧の低い、読み取りずらい文字の記録
- 職場内「後継者」の確保